

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 SOALA太宰府校			
○保護者評価実施期間	R7年 12月 10日		～	R7年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名（兄弟児あり5家庭）	(回答者数)	5家庭
○従業者評価実施期間	R7年 12月 10日		～	R7年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 12月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様の行動の背景を踏まえた関わり、ご本人やご家族の思いに寄り添った支援	ご本人やご家族の気持ちに寄り添い、共感的に支援を行っています。 保護者様との対話を大切にしながら、お子様の特性に応じた5領域の支援を設定するとともに、進級や就学といったライフステージの移行がスムーズに進むよう、関係機関との連携も視野に入れた計画を作成しています。お一人おひとりのニーズに寄り添った支援を行えるように努めています。	経験の浅い職員も迅速に適切な支援を理解できる仕組みを整えます。 支援計画における「支援のポイント」や「配慮事項」をマニュアル化（見える化）し、全スタッフが一丸となって、お子様の特性や保護者様のニーズを理解して支援にあたっております。
2	支援プログラムに則った、固定化・偏りのない活動内容	活動プログラムの偏りを防ぐため、複数名の指導員で立案しております。 4つの基本活動（自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、余暇の提供、地域交流の機会の提供）をバランスよく取り入れ、5領域のねらいを持って活動しています。	より一層活動への理解を深めていただけるように、実施した活動プログラムのねらいについて、保護者様へ周知を行っていきます。 送迎時の情報共有のほか、LINEでの写真や動画での共有や、Instagramの活用、イベント案内等への記載も行っております。
3	社内外の講師による充実した職員研修の実施	毎月社内講師による研修を行っています。 合わせて、社外講師による階層別研修、社外講師による虐待防止や支援研修を受けております。 また事業所内でも毎月、研修動画視聴の機会を設けています。 職員の支援を高め、支援の質の向上を図っています。	支援の質の均一化を図るため、全職員がお子様の特性と個別支援計画の内容を理解していけるようにケース検討会を開催します。 誰が担当しても、同じ方針、同じ温かさで向き合える「チーム療育」を目指します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	安全計画や各種マニュアルについての周知不足	今回の評価を通じ、年間安全計画および各種マニュアルの周知不足が明確となりました。 契約時にご説明は行っているものの、その後の定期的な更新や訓練の進捗報告において、広報が不十分であったことを真摯に受け止めております。 Instagram等での避難訓練等の活動報告の発信は行っておりますが、それらがHPにて告知されている「安全計画」という公的な指針に基づいた活動であるという、専門的な視点での説明が欠如しておりました。これは職員間で「保護者様への継続的な説明義務」に対する共通認識が不足していたことが要因であると考えられます。	以下の2点を改善策として実施いたします。 ・安全計画や各種マニュアルに基づく業務スケジュールを、訓練や点検の実施だけではなく、保護者説明に対しても含めて可視化し全職員へ明示します。 ・Instagramの他、定期的なお便り（イベント案内等）で安全管理の取り組みを保護者様へ周知します。また、活動報告には安全計画との連動性を明記します。 以上の取り組みで、もって安心・安全な運営の共有に努めてまいります。
2	保護者間の交流機会が少ない	定期的に保護者参加型のイベント（そあらのひろば）を開催していますが、お子様の様子をご覧いただくことや、家族支援や兄弟児を含めた家族交流をねらいとした内容となっており、「保護者間の交流」を主目的にはしておりません。 今後は、保護者様同士の繋がりが芽生えるような活動を意図的にプログラムへ組み込んでまいります。	以下の2点を改善策として実施いたします。 ・保護者様だけの茶話会の時間を設定します。お子様やご兄弟が別室で楽しく過ごしている傍らで、保護者様が自然と情報交換をしたり、育児のヒントを分かち合ったりできる環境を整えます。 ・活動の中で、「保護者チーム」で協同を必要とする場面を設定し、保護者間での自然な交流機会を創出します。
3	環境面で完全なバリアフリーではない	事業所の構造上、完全なバリアフリーは困難ではあります。 でき得限りの安全管理の強化を行い、リスクの最小化を図っております。	階段昇降見守り時の職員配置ルールを徹底し、下方に職員が立ち、転落を予防します。